

みえ県連協ニュース

2022年度 No.4 (12月号)

三重県学童保育連絡協議会
津市下井町津興 1350
059-226-6260
専用携帯 080-2651-5711

三重県に要望活動を行う！

11月14日に県に対して要望活動を行いました。
コロナ禍のため、今回も少人数での開催となりました。
県連協から、藤田会長他役員3名が参加しました。県からは、子ども・福祉部少子化対策課山添課長、幼保サービスマスター松村班長、大田主幹兼係長の3名に出席していただきました。
主な要望項目とそれに対する回答は、機会をとらえてみなさんにお示ししたいと思います。
今後は継続的に話しあう機会を作っていく考えです。
県へ要望があれば、県連協の方に声を寄せていただきますよう、よろしくお願いたします。
今回は、県議会の各会派に伺い、県議会議員の方にも要望書に目を通してもらうようお配りしました。

第2回拡大役員会を開催！

12月6日にオンラインにて、第2回拡大役員会を開催しました。
県への要望書の回答を中心に説明が行われ、また、国の情勢について12月全国運営委員会の報告がありました。
各地域から活動状況報告をし、意見交換を行いました。

桑名	1. 要望書をまとめ、桑名市に提出 ある。
	2. 市からの書面回答について ※対面での意見交換を要望していたが、コロナ感染拡大のため書面回答になった。 ・施設の改善要望については、進んでない。 ・支援員の募集については市の広報やホームページを活用して市が継続して実施。
	3. 第2回連絡協議会の会議を2月開催予定 ・コトモノICTソフトについて意見交換。 ・市への要望を再度まとめ、書面で提出予定。
四日市	市連協 10月 第3回実行委員会 定例会 ・学童保育係との懇談会について 11月 学童フェスティバル 12月 第4回実行委員会 定例会 ・「OMIEみらいのトピックス」への参加について 経費の負担について、来年度からは市で予算化される予定。
	指導員の会 10月 第1回定例会 コロナ禍の活動の現状と課題等 12月 第2回指導員会実行委員会

四日市	1月 第1回学童訪問 市の動き 子ども子育て会議 1月30日開催予定 市主催指導員研修 ・中堅者研修(後期) 「遊び、文化活動の創造と実際」 グループで準備された材料で遊び道具を作り、実際に遊ぶ。 ・男性指導員の研修 12月1日 男性指導員同士で保育の悩みや課題について話しあう。 補助金について ・新型コロナウイルス感染症対策改修加算…1学童保育につき100万円 ・新型コロナウイルス感染症対策消耗品等購入費(事前聞き取りあり) 1支援につき40万円 令和5年度についても同様
鈴鹿	第2回連絡協議会 11月 ・市への要望について 子ども子育て会議 ・静養室の件について 市との懇談会 第3回連絡協議会 12月15日予定
亀山	1. 学童保育数、児童数は、9月から変化なし 2. 10月以降の主な活動内容や市内の状況等について 10月 定例会(2年半ぶりに開催) 状況報告、要望書等 11月 役員会 要望書の再確認。 11月末 市長に要望書提出。役員3名出席。コロナ禍により提出のみ。 要望書について ・キャリアアップ等継続して要望している。 ・一時的に定員を超える場合の運営補助金について 経過措置として、市が負担してほしい。 ・障害児受け入れ体制の整備強化支援 学校の教育を中心とした生活ではない学童保育と学校とは支援の仕方が違う。もう少し柔軟な対応をしてもらいたい。巡回的なことをしてもらいたい。 ・静養室の設置について 静養室のない学童保育が多い。コロナだけではなく、集団生活が難しい子どもいるので、心身共に落ち着けるような部屋を要望。 ・AEDの設置について 3. 今後の活動等について ・1月 理事会定例会を開催予定 ・市の研修(市連協と市の共催) 講師：久保田貢さん 「子どもの権利から考える育ち」 対面とオンラインを併用し、ハイブリッドで行う予定。
市連協	第40回学童っ子まつり 10月 1227名参加 ・50周年記念式典・研究会 12月4日 180名参加 50周年式典

津市	<p>来賓挨拶（知事の代理で県の福祉部長からご挨拶をいただきました。） 記念講演「国の新しい子育て支援策と学童保育」講師：真田 裕さん</p> <ul style="list-style-type: none"> 50周年記念冊子を作成する予定 第3回定例理事会 11月 <p>運営検討実行委員会よりアンケート結果を報告 グループに分かれ、情報交換会を行う。</p> <p>津市</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金説明会 長期休業中における会計年度任用職員のアルバイト募集に関する調査 <p>指導員の会</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月より対面で週1回の研修を実施 12月17日ボツジボール交流会（サオリーナ） 『学童保育』新聞発行 フエイヌフツクを開設し、指導員の会の研修の内容や様子を載せている。 <p>市連協の活動は今のところなし。</p>
松阪	<ul style="list-style-type: none"> 子ども文化芸術体験事業 12月 「栢尾将一の世界一の縄跳びショータイム」 地域では、生の舞台鑑賞の機会が少ないため、年間を通して劇やコンサートなどの企画を、2021年度から独自に取り組んでいる事業です。 令和5年度新規入所児童受け入れについて、入所規定を導入、 年々利用児童が増加し、量の保障が困難となり、利用事業所や利用時間等の調整をさせて いただく状況のため。 (資料より抜粋)

＜県連協＞

■全国運営委員会（12/3）の内容から

- 2022年度（10月～翌年9月）全国連絡協議会の活動方針について
 - 会計検査院の指摘による返還について、各地域の実態が報告される
この問題については何度かお知らせしましたが、土曜日の保育について、分割している所へ指摘が入っています。例えば、台同保育をしている場合、1支援の人数基準で指導員配置をしていると、2支援ではなく1支援の扱いになります。
正しい補助金運用が問われています。多額の補助金の返還がされたケースの報告がありました。
- 会計検査院が入った場合は、土曜日の指導員の配置、開所日数も含め、チェックが入ります。三重県ではまだ聞いていませんが、もし万が一の時は、遡って5年間分の実態を調べられることとなります。
- 金沢市の例は、5000万を市の責任として市が全て対応していますが、異例なことです。『日本の学童はいく』協議会だよりも紹介されていますが、ほぼ指摘を受けた学童保育が計算して返還することになります。
- 改めて条例に沿った配置など丁寧な対応を求められています。

3. その他

・ 放課後子供教室について

本来は、地域の方にお手伝いしてもらいながら、謝礼金程度で進めていくものですが、奥蔵の中には、企業に委託して行っているケースもあり、企業に168万払うのかという意見も出ました、いろんな所が入り込んできていますので、気にかけていきましょう。

- 『日本の学童はいく』の来年度のモニターの募集をします。
- 補正予算のポイントについて
令和4年度第2次補正予算は、12月2日に成立しています。
放課後子供教室との連携推進 ※これに特に注目してください。
事業の概要のなかに放課後児童クラブが入っているので活用できます。
放課後児童クラブ等連携促進事業
コロナウイルス関係では、従来通りの人数にあった補助金は付いています。感染対策のための改修には、トイシヤや非接触型の蛇口等も含まれ、100万という金額も明記されていますが、行政側の判断になってきます。

■全国研を終えて

- 三重県からの最終参加申し込みは136名。150名を目標にしましたが届かず。全体としては4575名の参加申込みがありました。
特徴的な所は、保護者の参加がほとんどなく、全体としても、経験年数が少ない方の参加が多かった。親の思いがあつての現在に至っている経緯があるが、オンラインだから参加しにくいのか。参加することに意味がある。
1年に1回なので、各地域でも参加について分析してほしい。
 - 分科会運営
鈴鹿・亀山市連協に各2名の協力を要請し、県連協役員5名と9名で分科会の運営を担いました。
- 予算の関連があるので、来年の開催について分かり次第、情報提供したいと思います。

■第35回三重県学童保育研究会 ～子どもたちの笑顔あふれる学童保育を～

- 開催日時 2023年2月19日(日) 全体会 9:30～11:45
交流会 13:00～14:30(自由参加、事前申し込み制)
- 記念講演 久保田貴さん(愛知県立大学教授)
「知っていますか？子どもの権利条約—子どもたちの健やかな成長のために—」
- 開催方法 オンライン開催(全体会は「ウェビナー」、午後交流会は「Zoom」ミーティング)
資料代 1,000円 *申し込み締め切り1月18日(水)
*2月1日に参加者へ資料など郵送予定。
*アドレスを把握している自治体には、データでチラシを送る予定。

■最新版『学童保育情報2022—2023』発行(全国学童保育連絡協議会)

資料も増えて、中身もより分かりやすくなっています。
新しい試みとして、できる限りの自治体にも案内をします。
県の担当課には全国連協から贈呈していますので、市町の担当課にも1冊置いてもらうことも良いと思います。贈呈している地域連協もありますが、いろんなやり方があると思いますので、「一緒に」ということでは、参考にしてください。
購入希望の方は、問い合わせください。1冊1000円です。

【今後の予定】

- | | | | |
|----------|------------|-------|---------------------|
| 1月9日(月) | 小運営委員会 | オンライン | (第48回全国学童保育指導員に向けて) |
| 1月18日(水) | 役員会① | | |
| 2月19日(日) | 三重県学童保育研究会 | オンライン | |
| 3月7日(火) | 第3回拡大役員会 | オンライン | |

読むサブリ 『日本の学童ほいく』

12月号

掲載者紹介

P42 こどもランド イラスト 村田惟人さん（鈴鹿市 玉垣シイソノー 2年）

読みどころ

☆特集 生活の場としての施設と環境を考える

P10 子どもたちの「生活の場」を保障する施設空間 小伊藤亜希子（大阪公立大学）

・国の設置運営基準における一支援の単位「おおむね40人以下」の基準は…

保護者、指導員をはじめとした学童保育関係者は、現場の声を集めて、改善に向けた運動につなげ、全国連協が2003年に「私たちが求める学童保育の設置・運営基準」を公表し、必要な施設条件の提示とともに、「学童保育の規模の上限は40人まで」と提言したことが、国のガイドライン、その後国が出した設置運営基準へとつながっていったことが書かれています。

・設置運営基準に定められた学童保育の広さに関する面積基準は1人あたり1.65㎡
保育所の最低基準の1.98㎡よりまだ小さいのです。

実際に生活している子どもたちがどのように感じているのか、とても大事なことだと思うので、子どもの声も運動の一つに加えることができたらいいなあと思いました。

☆P46～ 講座 子どもの生活と発達を学びほぐす臨床的試論

第3回 「関係」の発達を考えるー関係が変わる、気持ちが変わる

小淵隆司（北海道教育大学）

「子どもも大人も個として存在しながら、決して、一人だけで存在しているのではない。自分の内にある他者、自分と離れていながらもつながっている他者、そんな他者の存在によって、自己がある。その自己は、状況が変われば違う一面が立ちあがってくるし、関係が変われば行動も変わる。それらの関係は、変化するだけでなく、発達する。」と最初に書かれています。今回は、「関係」について、事例を通して学びます。

☆P74～ 協議会だより

◇社会保障審議会児童部会「放課後児童対策に関する専門委員会」〈第13回専門委員会〉

・文部科学省は、放課後子供教室について、スタンスを明確にしました。

「社会教育の一環」「地域の大人たちの日々の学びの成果を生かす」「地域住民ポラテイアは、無償あるいは謝金（賞金ではない）」「週1～2日が標準」「地域の人々の参画により実施される教育プログラム」であることを説明しています。

・コミュニケーション・スクールと地域学校協働活動の一体化推進の図示では、「学校運営協議会」の委員に、「放課後児童クラブ関係者」の文字が入っています。

・第二回児童館の在り方に関する検討ワーキンググループが11月22日に開催され、議論の取りまとめ案が提示されます。

全国連絡協議会としては、ひきつづき、ワーキンググループ、専門委員会の議論を注視し、各委員に私たちの要望を届けますとのことです。

◇全国学童保育連絡協議会定期総会を開催！

10月23日、2022年度の定期総会を開催しました。総会では、2021年度の活動報告、

決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。ついで、「学童保育をめぐる現状と課題」を確認し、今年度の活動方針と予算案が承認されました。

今年度の全国連協役員が選出され、会長が戸塚丈夫（三多摩・保護者）さんに変わりました。

1月号

掲載者紹介

裏表紙 作文 あらかわやまとさん（津市 みどりっ子 1年）

P40 こどもランド イラスト 大野ななみさん（津市 たつの子会 3年）

P42 こどもランド イラスト 大野一颯さん（鈴鹿市 あおそら 5年）

読みどころ

☆特集 食物アレルギーを学ぶ

P10 学童保育と食物アレルギー 子どもを守るために知っておきたいこと

森 蘭子（森こどもクリニック 小児科医）

子どもの命にかかわることなので、正しい知識と確実な対応がとても大事だと改めて思います。

学校、家庭、学童保育の連携が必須で、個人票なども詳しく書いてもらい、保護者とは常に確認しあうことも必要です。

P31から「小学校における食物アレルギー対応」も載っていますので、ぜひ読んでみてください。

☆P46～ 講座 子どもの生活と発達を学びほぐす臨床的試論

第4回 「一緒にあそぶ」ー参加の状態を考える 小淵隆司（北海道教育大学）

「一緒にあそんでいる」ように見えるけど、そんなに一緒にあそんでいるのではないのではないか。あるあそびを一緒にしているからといって「一緒にあそんでいる」とは限らないのではないか。一緒にあそんでいるように見えなくても、その周辺で、あそんでいる友だちのやりとりや、あそびとつながり、楽しんでる状態もあるのではないか。

「一緒にあそぶ」とか、「なにかを一緒にやる」ということは、単に「一緒に行動している、いない」ということだけで、見ることはできないのではないだろうか。

何がどのようにおもしろいのか、それは一人ひとりがちがいが、いろいろだからおもしろいど…。先生の問いかけに、子どもと一緒に楽しみながら、探っていきたいと思います。

☆P38 こどもランド 「どうしてどうして？」

子どもたちが「どうして？」と思うことに、専門の先生が答えてくれます。

今回は、モクスカニのことが載っています。豊田川の河口でも泳いでいますね。でも、まだまだわからないことがたくさんあるそうですよ。

知りたいことがあったら、編集部に送ってくださいね。

☆P71 保護者と指導員が力をあわせて、子どもが主体者の

よりよい学童保育をつくりましょう

全国連協の2022年度「活動方針」における「私たちの重点課題」の4点について、説明も含め載っています。一度目を通してください。

また、「人と人とのつながり」をさらに発展させていくことが、これからの時代を切り拓く大きな力に…。このことについてみんな考えあうことだと思います。